



土佐中村 一條神社

小京都中村の歴史を訪ねて

土佐の小京都、中村―
まちの中心にありながら、
小高い森に囲まれ、静寂の内に佇み
時のうつろいさえ忘れる場所があります。

この地に京都の文化を伝えた
一條家を祀った一條神社。
一四〇余年の由緒と
「いちじょうさん」の愛称で親しまれる
文化を紹介します。



一條神社 由来

一條神社は、前関白一條教房公が中村の地に下向された後、中村御所内の小森山に一條家の先祖の御廟所をお祀りしたこと
に始まる。土佐一條家の滅亡後、慶長12年(1608年)一條家の遺臣たちは、土地の庄屋たちと相談し、一條家の徳を仰ぎ祠を建て、一條家にかかわる人々の霊をお祀りした。

また、藤原氏の祖先を祀る春日神社、京都八坂の祇園神社、石清水八幡宮を勧請し不破八幡宮を創建した。明との貿易も行い、一條家は富み栄え土佐第一の町として賑わい、土佐の小京都と呼ばれた。
土佐国司、土佐一條四代兼定公が中村御所を去る時に「植えおきし 庭の藤が枝 心あらば こん春ばかり 咲くな匂うな」と詠まれた「咲かずの藤」が文久元年(1861年)見事に美しく花を咲かせるということが起り、時の幡多郡奉行、中村目代、大庄屋一体となり、一條家の遺徳を顕彰し、幡多郡民の総鎮守の神として崇め奉るため、社殿を造営し、毎年3月には神輿を、10月の祭礼には相撲を奉納することなどを定め一大祭典を行うことを郡民に命じて翌年文久二年(1862年)一條神社が創建された。

御所館の周りには碁盤目に町並みをつくり、家臣や商家がきらびやかに立ち並んだという。今も京町、宮田小路、羽生小路、鴨川、東山などの地名が残っている。

現在、一條大祭は土佐の三大祭の一つと数えられ当日は幡多郡下より大勢の参詣人で賑わっている。

土佐一條氏系図

兼良(若藤男命)

―― 教房 ― 房家 ― 房冬
室(若藤女命)

―― 房基 ― 兼定 ― 内政 ― 政親

伏見宮式部卿
邦高親王第九女王玉姫



土佐三大祭—いちじょこさん—

一條大祭



三日三晩

一條大祭は、春(旧3月15日)神幸祭・おみこし(渡御)、秋(旧10月25日)相撲興業と定められていましたが、昭和36年新暦11月23日より三日間となっていました。

三日間の無礼講は現在ではあまりみかけなくなりましたが、当初は各地区の神祭の接待のお返し、商人達のお得意様へのお礼といった意味合いも深く相当な酒宴が繰り広げられていました。



京都 下鴨神社にて、
厳かに熾される
御神火(ごしんか)。



春の祭りは5月3日「一條公家行列藤祭」としておみこしも出て復活し、秋の大祭は平成20年より、11月22日宵宮祭、23・24日本祭、とする三日間に変更されました。

秋の一條大祭は、一條氏ゆかりの京都 賀茂御祖神社(下鴨神社)にて、古式にのっとり点火された御神火を頂き、宵宮祭(22日夕刻)に一條神社本殿に奉納する「御神火奉迎式」から始まります。また、境内には三日三晩かがり火として灯され続けます。

23日、一條神社神殿では午前10時半より正午まで大祭式という儀式が厳粛に行われます。続いて午後からは雅な衣装をまとった稚児行列が祇園神社より進み、午後3時半ごろ一條神社へ到着します。

境内の舞台では、神楽や大道芸の数々が奉納されます。市内のあちこちでは相撲大会を始め各種行事・競技が行われ、露店も三百余り立ち並び大いに賑わいます。

24日、夕刻の後夜祭神事、御神火消納之儀をもって、三日間の一條神社秋季例大祭は幕をとじます。

大祭初日の「御神火奉迎式」は拝観できます。
午後6時より行われますので、ぜひお越しください。

【神社・神事の問い合わせ先】 一條神社 四万十市中村本町1-11 TEL 0880-35-2436